

2:1 さて、あなたがたは自分の背きと罪の中に死んでいた者であり、  
2:2 かつては、それらの罪の中にあってこの世の流れに従い、空中の権威を持つ支配者、すなわち、不従順の子らの中に今も働いている霊に従って歩んでいました。

2:3 私たちもみな、不従順の子らの中にあって、かつては自分の肉の欲のままに生き、肉と心の望むことを行い、ほかの人たちと同じように、生まれながら御怒りを受けるべき子らでした。

2:4 しかし、あわれみ豊かな神は、私たちを愛してくださったその大きな愛のゆえに、  
2:5 背きの中に死んでいた私たちを、キリストとともに生かしてくださいました。あなたがたが救われたのは恵みによるのです。

2:6 神はまた、キリスト・イエスにあって、私たちをともによみがえらせ、ともに天上に座らせてくださいました。

2:7 それは、キリスト・イエスにあって私たちに与えられた慈愛によって、この限りなく豊かな恵みを、来たるべき世々に示すためでした。

2:8 この恵みのゆえに、あなたがたは信仰によって救われたのです。それはあなたがたから出たことではなく、神の賜物です。

2:9 行いによるものではありません。だれも誇ることもないためです。

2:10 実に、私たちは神の作品であって、良い行いをするためにキリスト・イエスにあって造られたのです。神は、私たちが良い行いに歩むように、その良い行いをあらかじめ備えてくださいました。

世の中に善人は大勢いますが、聖なる神様の前に罪のない人は1人もいません。良い行いも、それが許される状況があるからできるのです。善を行っていると思っている人でも、大きな悲しみや裏切りに会うとき、または長くストレスが続くときなど、大きく変わってしまうものです。

ですから神から乖離（かいり）しているなら、自己中心の罪を免れることはできません。誰でも「罪過と罪との中い死んでいた」者なのです。

何よりも自分を造ってくださった神を無視して、その心を踏みにじて生きてきたのですから、どんな親不孝よりも罪が重いということになります。「不従順の子らの中にあって」ということです。ですから救われたのは、「ただ恵み」だけです。

そして救いとは「ともに天の所にすわらせてくださる」ということなのです。私たちは地上にあって天の所から全てを見ることができるようになります。そしてあとに来る世々において、「恵を」明かに示していただけるのです。神の恵はこの世の視点ではわかりません。神の視点が必要です。主の心ころが分るようになった私たちにこそ、「天の所」から見られる視点が与えられているということです。

その時に分ることは、私たちの救いは行いによるのではなく、ただ一方的な恵みによるということであり、良い行いはその後についてくるということです。

ですから救いの確信が何よりも大切です。成長には救いの確信が大切であり、奉仕も、どんな行いにも救いの確信が、その力になります。また救いの感謝が動機となるのです。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

